

令和7年度 第2回 在宅医療×介護連携@つちう Labo 参加者アンケート

- 日 時：令和7年8月25日（月）14時00分～15時00分
- 場 所：社会福祉協議会ウララ2ビル 4階 講義講習室
- テーマ：情報連携ツールに関する意見交換会
- 出席者：48名（アンケート回答率：93.8%）

1. あなたの年齢、職種を教えてください。

【年 齢】

	人数	割合
20代	5	11.1
30代	9	20.0
40代	8	17.8
50代	13	28.9
60代	9	20.0
70代以上	1	2.2
合計	45	100.0

【職 種】

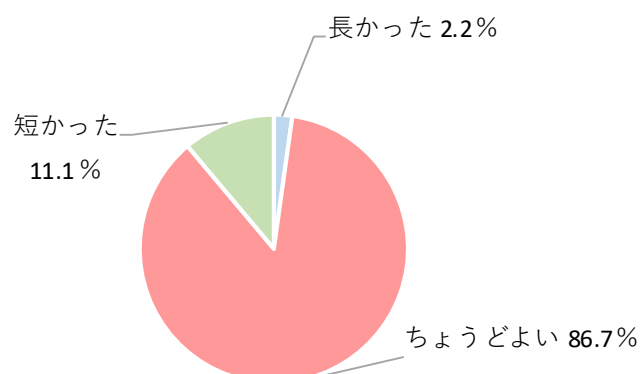
	人数	割合
医師	1	2.2
薬剤師	24	53.3
保健師	1	2.2
看護師	1	2.2
ケアマネジャー	15	33.3
介護職	3	6.7
合計	45	100.0

2. 本日の研修会について

（1）講演についてお伺いいたします

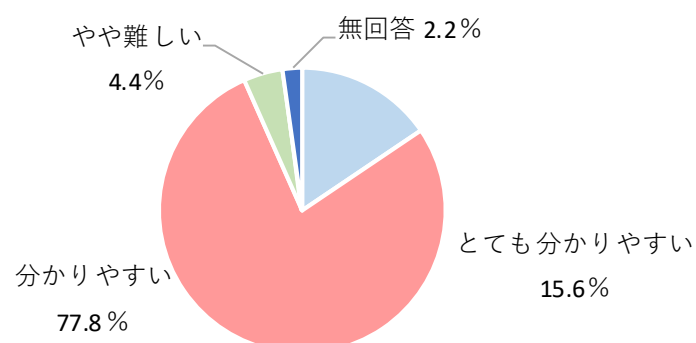
①講演の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	1	2.2
ちょうどよい	39	86.7
短かった	5	11.1
無回答	0	0.0
合計	45	100.0



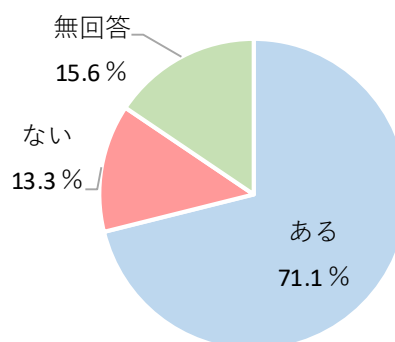
②講演の内容は、いかがでしたか？

	人数	割合
とても分かりやすい	7	15.6
分かりやすい	35	77.8
やや難しい	2	4.4
難しい	0	0.0
無回答	1	2.2
合計	45	100.0



③本日の講演内容で、今後取り組もうと思った内容がありますか？

	人数	割合
ある	32	71.1
ない	6	13.3
無回答	7	15.6
合計	45	100.0



【「ある」と回答した方：具体的な内容】

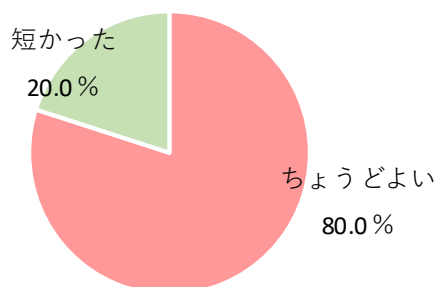
- ・他の業種との情報のやり取り。
- ・利用者様が連携手帳を使用していた場合は、是非活用したい。
- ・緊急キットなどの確認。
- ・連携手帳の活用。
- ・在宅ケア連携手帳の活用により、もっと他職種の方と連携できればと思った。
- ・ツールの活用、支援充実のため多職種連携の方法を検討する。
- ・多職種連携に使用したい。
- ・ケアマネさんと連携して、ツールを活用していきたいです。
- ・薬剤師として、在宅連携手帳に記入をしていく。
- ・情報共有のツール。
- ・CMさん、ヘルパーさんとの連絡先の共有。
- ・多職種連携としてのツール活用。
- ・もっと連携手帳の活用をしていきたいと思った。
- ・患者さんの家族との関わり。
- ・連携手帳の活用。
- ・備えて安心！急変時の対応シートの活用。
- ・様々な連携手帳を使ってみたい。周りに周知したい。
- ・急変時の対応シート等ツールを活用して、医療介護の連携に活かしたい。
- ・利用者家族に情報連携ツールの周知を徹底していく。
- ・サービス利用者に在宅ケア連携手帳を活用できているか確認を行う。
- ・個人的にも、緊急時の安心シートは利用してみたいと思いました。
- ・ACPに関する社内教育。
- ・他職種に伝えるポイントが理解できたので、活用していきたいです。
- ・在宅ケア連携手帳の使い方。
- ・在宅ケア連携手帳を使ってみる。
- ・ツールを活用したい。
- ・在宅ケア連携手帳とくらしをささえるおぼえがきを広めたい。

- ・市外からのため、地域に持ち帰り、利用出来るツールが自分の市にあるか、改良すべき点があるか確認したい。
- ・在宅ケア連携手帳を活用しようと思った。
- ・改訂版はとても現実に即して良かったと感じました。使わせて頂きます。

（２）意見交換会について、お伺いいたします。

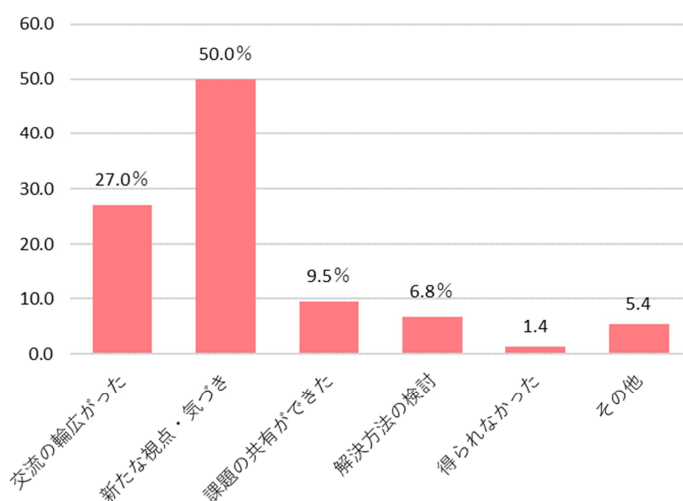
①意見交換会の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	0	0.0
ちょうどよい	36	80.0
短かった	9	20.0
合計	45	100.0



②本日の意見交換会では、どのような成果が得られましたか？

	人数	割合
交流の輪広がった	20	27.0
新たな視点・気づき	37	50.0
課題の共有ができた	7	9.5
解決方法の検討	5	6.8
得られなかった	1	1.4
その他	4	5.4



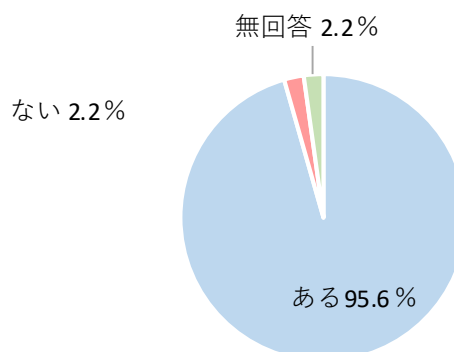
【その他】

- ・もう少し、互いの確認がほしいと思った。
- ・もう少しグループワークの時間があれば、なお良い検討ができたと感じます。
- ・勉強になりました。在宅に活かしたいと思います。
- ・在宅ケア連携手帳の活用法について。

3. 普段の支援についてお伺いします。

①日常の業務の中で、在宅療養に関わることがあ

	人数	割合
ある	43	95.6
ない	1	2.2
無回答	1	2.2
合計	45	100.0



②円滑な在宅療養支援のため、日頃実践していることや、課題に感じていることを教えてください。

【実践していること】

- ・必要時は電話で連絡している。
- ・連絡ノートの活用。
- ・共有ファイルで情報交換。アプリを使うこともある。
- ・他職種との連携をできるだけ密に行う。
- ・介護としての時間。
- ・多職種の方に報告。
- ・顔の見える関係作りをしています。
- ・ラインの活用。
- ・患者宅等で、CMさんなどとお会いした際は現状の共有。
- ・かかりつけ→在宅移行。
- ・在宅を希望される方は、看取りが出来るようにサポートしていけるように心掛けている。
- ・在宅患者さんの家族との関わり。
- ・在宅ケア連携手帳ではないが、大学ノートのようなもので連携をとっている。
- ・サービス事業所との連携、情報共有。
- ・患者様の服薬支援をひとりひとり行う。
- ・他職種との情報交換、共有。
- ・地域資源の提案。
- ・利用者の身体状況に応じた簡単なリハビリ等。
- ・在宅訪問薬剤管理指導。
- ・医療機関やケアマネジャーとこまめに情報共有を行っています。
- ・処方医、ケアマネと連絡をとる。
- ・配薬、服薬指導。
- ・何でも話していただけるような関係作り。
- ・多職種との連携。
- ・日々のモニタリングを細かく行う。

【課題に感じること】

- ・他の業種との情報共有。
- ・アンケートにも入っていたが、タイムラグと確認の有無が分からない。
- ・共有ファイルで情報交換→確認できるタイミングがリアルタイムではない。
- ・できるだけタイムリーに行いたい、互いに他の業務も抱えているため、難しい部分もある。
- ・家族支援の仕方。
- ・多職種との情報交換をよりスムーズに簡単に行いたい。
- ・多職種との連携。
- ・多職種のつながり（情報共有）。
- ・多職種との関わり。
- ・誰が確認したのか分からない。
- ・主治医との連携、薬剤師との連携。
- ・認知機能低下の方の服薬支援。
- ・認知症の方や独居の方には、一緒に記入支援してくれる人が必要。
- ・サービス訪問時以外の状況の把握が難しい。
- ・服薬コンプライアンス。
- ・外来業務との兼合い。
- ・緊急対応のときに、予定外の往診のスケジュールが把握できない。
- ・電子ツール。
- ・薬剤師にできることが少ないと思われてしまい、何でも相談してよいと思っていただけない。
- ・関わっている職種全員で共有できるツールがない。

③どのようなツールがあれば、連携しやすいですか。

【薬剤師】

- ・PCやスマホなどでアプリ上で見れるようなもの。
- ・紙媒体でもSNSでもバイタルサイン等が知りたい。
- ・スマートフォンやタブレットを使用する。
- ・つくば市ですが、今回のような手帳があればとても分かりやすく良いと思った。
- ・紙ではなく、インターネットによるツール（LINEのグループのような）。
- ・ネットツール。
- ・MCSを使って医師や看護師と連携しています。
- ・SNSによる情報共有ツール。在宅にいなくても確認できるツールがほしい。
- ・連携がしっかり取れる施設ならば、ICTツールは有用と思います。
- ・往診予定や時間変更等を共有できるとスムーズな配薬ができそう。
- ・レスポンス。
- ・退院時の引継ぎできるものがあれば・・・。
- ・土浦市で使っているようなノート。

【介護支援専門員】

- ・プログラム形式。
- ・ツールは誰に対して、どんな場合で活用するものなのか、もっと分かりやすい方が良いと思う。
- ・ケアマネがサービス事業所か、薬剤師か、救急車か・・・。
- ・連携ノートは役に立っています。
- ・メールなど。
- ・連携ノートを病院や薬局にも持参する。
- ・対象者のおかれている状況がわかるようなツール。
- ・リアルタイムで連携できるツールがあるとよい。
- ・SNS 系のツール。

【介護職】

- ・紙以外でも連携できるものがあるといいかもしれない。

④関係機関との連携に対して感じていることはありますか。

- ・相手が知りたい情報の確認が難しい。
- ・一方通行になることが多い。
- ・報告書をより簡単にできたらよい。
- ・関係者全てに連絡するのは大変です。
- ・連絡（電話）がつかない時、情報共有が遅れてしまう。
- ・なかなかきっかけを見出しづらい。
- ・薬剤師が他職に比べ、情報を得る手段が少ない。
- ・必ず誰もが目を通していただけているか？
- ・リアルタイムに連携をとりにくい時がある。
- ・メールだと、時間を気にせず確認できる。
- ・ケア会議の参加をまめに行いたい。
- ・一ヶ所と強く連携した方が、最終的にはいいのではないかと思います。
- ・担当者が分かるように顔合わせのタイミングとかがあると、連携がとりやすいと思います。
- ・電子ツール。
- ・情報共有を明確にする。
- ・医療連携が難しい。
- ・薬剤師が在宅で出来ることが知られていない。
- ・薬剤師としては、他の関係機関との連携する機会を増やしてほしい。

4. 今後、どのようなテーマの研修会や意見交換会を行ってみたいですか。

【薬剤師】

- ・なんでも。
- ・認知症介護の携わり方。
- ・ACP、実践的な取り組みについて。

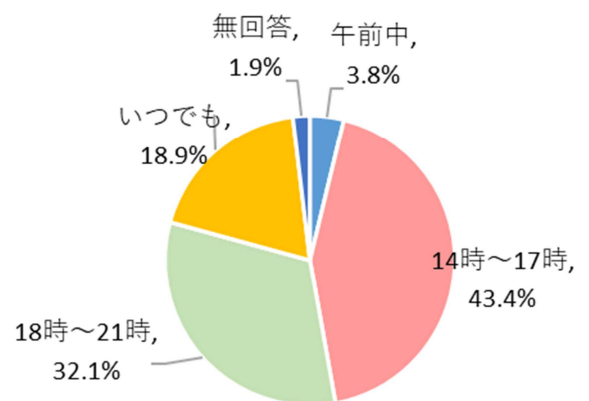
- ・訪問時に各職種が求める情報。
- ・災害時の対応（これからくるであろう）。
- ・利用者の連携の問題点。

【介護支援専門員】

- ・成年後見制度。
- ・家族支援。
- ・認知症について。

5. 研修会等に参加できる時間に○をつけてください。

	人数	割合
午前中	2	3.8
14時～17時	23	43.4
18時～21時	17	32.1
いつでも	10	18.9
無回答	1	1.9



6. 最後に、お気づきの点や、ご感想などがありましたら、自由にご記載ください。

- ・今回土浦市に、このような情報共有ツールがあることをはじめて知りました。
- ・大変参考になりました。
- ・お疲れ様でした。
- ・時間をもう少し長くしてもいいかも。
- ・ありがとうございました。
- ・日中開催に初めて参加させて頂きました。参加しやすく、ハードルが下がりました。